

2026年 4月 22日

【ニルブルクリンク 24 時間 Qualifiers Race2】
【ニルブルクリンク耐久シリーズ 第 5 戦 / ニルブルクリンク(ドイツ)】
REALIZE KONDO RACING がポールポジションを獲得！



ニルブルクリンク 24 時間の Qualifiers(予選レース)は、Race2 が 4月 19 日(日)に開催された。本大会は全 10 戦のカレンダーが組まれているニルブルクリンク耐久シリーズ(NLS)の第 5 戦も兼ねており、同シリーズとしてはシーズン前半の締めくりとなる。そして 5 月に開催される 24 時間レースに向けては最後の本番コース走行機会であり、各チームにとっては重要な一戦となる。

この日の朝は上空を黒い雲が覆っており、夜半の雨によってコースは濡れている状態、競技運営団は「ウェット宣言」を予選開始前に出した。また、予定では 8 時 15 分とされていた開始時刻は 15 分延期され、この間にタイヤバリアなどコースの安全が再確認された。セッション終了は当初予定通りの 9 時 45 分、よってセッションは 15 分間短縮されるかたちとなった。

時間短縮もあり、各車は開始とともにコースイン。25km におよぶニルブルクリンクのコースは、雨が既に止んでいることから基本はウェット路面だが、そのグリップレベルにはある程度の幅がある難しいコンディションであった。しかし、これは 24 時間レースを見据えた場合には絶好のテスト機会とも捉えられ、ADVAN カラーの BMW M4 GT3 EVO(77 号車)のチーム運営を司る Schubert Motorsport のトルステン・シューベルト代表も「24 時間レースに向けてテスト項目をこなす必要があり、こうしたコンディションを試すことが出来て嬉しい」とコメントしている。

難しいコンディションの中では、コースオフを喫してマシンにダメージを受けたチームも散見された。そんな中でヨコハマタイヤ勢はノートラブル、ノーアクシデントで予選を走りきり、HRT Ford Racing のフォード・マスタング GT3(67 号車)が総合 3 番手、REALIZE KONDO RACING with Rinaldi のフェラーリ・296 GT3 EVO2(45 号車)が 6 番手のタイムをマークした。

このセッションが終わると、24 時間レース本戦と同様の Top Qualifying(トップ予選)が行われる。SP9 と SP-X など 5 つのクラスが対象とされ、燃料満タンの状態でホームストレートへ一列に並び、およそ 15 秒間隔で次々にスタートして 2 週の計測ラップを走るという流れになる。ここでの結果は決勝レースのスターティンググリッドに反映され、クリアラップをほぼ確実にとれる状況ゆえに純粋な速さの競い合いとなる。

10 時 40 分にトップ予選がスタート、路面はまだ完全に乾いてはおらず難しいコンディションが続いている。そんな中で各選手が渾身のアタックを繰り広げていくが、6 番目にスタートしていた 45 号車はティエリー・フェレメン選手が 1 回目のアタックで 8 分 10 秒 275 をマークして、タイミングモニターの最上段にその名を刻んだ。

最終的には 23 号車の BMW M4 GT3 EVO が 45 号車に迫ったが、これを 0.001 秒おさえて REALIZE KONDO RACING with Rinaldi がポールポジションを獲得。フェレメン選手は終了後に、チームが素晴らしいマシンを用意してくれたことへの感謝を述べるとともに、決勝に向けて士気をますます高めていた。



4 時間で競われるレース 2 の決勝は 13 時にスタート、フォーメーションラップから 2 列に整列してホームストレートへ帰って来た一団はグリーンシグナル点灯とともに 1 コーナーへと向かっていく。その先頭は 45 号車、ステアリングを握るのはデニス・マーシャル選手だ。マーシャル選手はトップを守って 1 コーナーをクリア、その先もサイド・バイ・サイドからポジションを守りきってノルドシュライフェへと進んでいく。そのままトップでニルブルクリンクの名物コーナーとして知られるカールセルもクリア、0.827 秒差の先頭でオープニングラップを終えた。

2 周目には 2 台の先行を許したものの、離されることなく前に出たマックス・フェルスタッペン選手の背後にピタリとつけるマーシャル選手。バックマーカーも現れる中でトップ集団の一角を走っていたが、4 周目にまさかの展開が。右コーナーが連続するブリュンヒェンで別クラスの車両と接触、45 号車は足回りにダメージを負って戦線離脱を余儀なくされてしまった。



このレースでヨコハマタイヤ勢の最上位となったのは、SP9 クラスに BMW M Motorsport から参戦した BMW M4 GT3 EVO(77 号車)。8 列目のグリッドからスタートを迎えたが、前半を担当したチャールズ・ワーツ選手がポジションをあげてウーゴ・デ・ワイルド選手へとマシンをリレー。ワイルド選手も残り 15 分の終盤で激しいバトルを繰り広げるなど好走を見せ、最後は 6 位でチェッカーを受けることに成功した。

また、HRT Ford Racing のフォード・マスタング GT3 は 67 号車が 9 位、65 号車は 12 位でそれぞれ完走。そして SP-X クラスに BMW M Motorsport から参戦の BMW M3 Touring 24h(81 号車)は、SP9 勢に割って入る 7 位という総合シングルポジションを、クラス優勝で獲得した。